



---

# 標準施工要領書

---

バイタルデッキ R  
【設定仕様：在来工法】

## バイタルデッキ R 標準施工要領書 【設定仕様：在来工法】

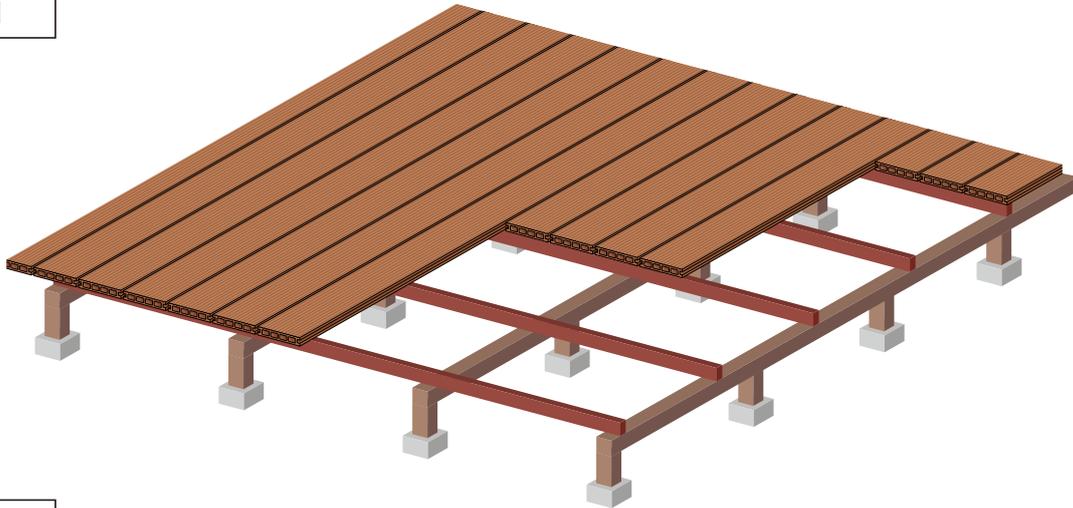
バイタルデッキ R は十分な強度・耐久性を持った鋼製（亜鉛メッキ鋼板）・アルミ製・木製などの下地に施工してください。

本書は、木製下地を使用した場合の標準施工要領 [ 在来工法 ] です。

その他の下地による施工につきましては、当該下地メーカー資料をご利用いただくか当社営業部までお問い合わせください。

※木製下地による在来工法は主に戸建住宅向けの施工方法となります。商業施設や文教施設、オフィスビルなどでの使用の際は耐荷重性能や耐久性確保のため、鋼製下地での施工をご検討ください。

### 構成図



### 部材リスト

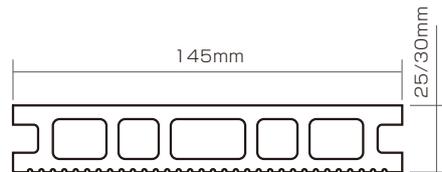
#### ■デッキ材料

○バイタルデッキ R25 / R30

規格：厚 25 / 30×巾 145×長 2000mm

梱包：3枚 / 束 (0.870 m<sup>3</sup>入 / 束)

重量：R25(約 19kg / m<sup>2</sup>) R30(約 23kg / m<sup>2</sup>)



リバーシブル(両面使用可)

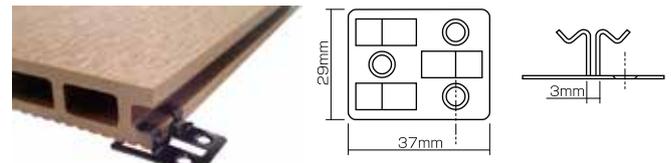
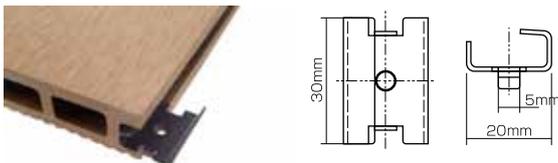
#### ○取り付け金物

・根太用クリップ(5mm 目地)

注) 長手方向のデッキ間を 5mm で施工します。

・根太用クリップ(3mm 目地) ※R25 のみ対応

注) 長手方向のデッキ間を 3mm で施工します。



・スタート用クリップ ※R25 のみ対応



・エンド用クリップ ※R25 のみ対応



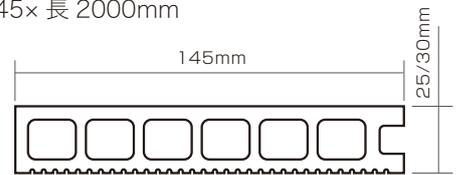
※すべての金物に鋼製下地用ビスがついています。

## ○バイタルエッジデッキ R25 / R30



規格：

- [バイタルエッジデッキ R25] 厚 25× 巾 145× 長 2000mm
- [バイタルエッジデッキ R30] 厚 30× 巾 145× 長 2000mm



リバーシブル(両面使用可)

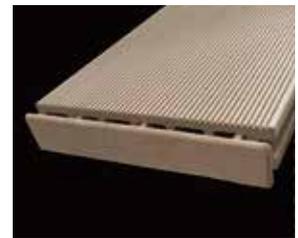
## ○バイタル幕板 80/140



規格：

- [バイタル幕板 80] 10×80×2050mm
- [バイタル幕板 140] 15×140×2050mm

## ○バイタルキャップ R



### ■下地材料

- ・根太 45×90mm
- ・大引 90×90 mm
- ・束 90×90 mm
- ・根がらみ 20×90 mm
- ・火打 45×90 mm
- ・幕板受け 40×45 mm

長期の屋外利用に適した木材を使用してください。(下地材料に適した樹種の例：イペ、セランガンバツなど)  
木材の種類、使用環境などに応じて塗装・防腐・防蟻などの処理を行ってください。

※上記下地材料は必要数量を明示の上当社にご発注いただくか、材料を現場調達してください。

※下地を固定する釘・金物などは材料を現場調達してください。

### 施工要領

#### ■施工手順 - ①下地の施工

##### ●基準墨出し

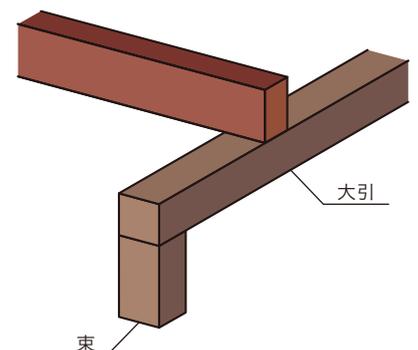
- ・床基盤をよく清掃し、墨出しを行ってください。
- ・束の間隔は 606mm 以下に設定してください。

##### ●束の設置

- ・束を束石に固定してください。
- ・束の固定後にレーザー又は水糸を用いて天端のレベルを確認してください。
- ・端部の束は大引の端部より 150mm 以内に配置してください。

##### ●大引の取付

- ・設置した束に大引を固定してください。
- ・大引のピッチは 606mm 以下としてください。



●根太の取付

- ・根太ピッチは 455mm 以内としてください。  
尚、不特定多数の歩行や重量物の設置など負荷の大きい利用が想定される場合は根太ピッチを 400mm 以下に変更してご使用ください。
- ・長手方向のジョイント部は 5mm 程度の目地を取ってください。
- ・根太のはね出しは大引の中心から 120mm としてください。
- ・壁側などには 10 ～ 30mm の間隙を設けてください。

●幕板受け下地の設置

- ・幕板の使用に応じて 40×45mm 程度の木片を根太側面及び根太木口に固定してください。

■施工手順 - ②デッキの施工

●デッキ材の保管

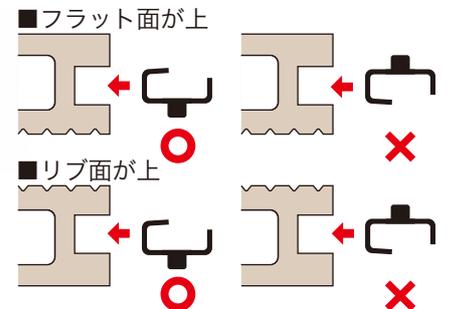
- ・デッキ材を保管する際は立てかけずに平置きしてください。
- ・雨や直射日光、暖房器具の近くなどに注意し、高温多湿になる場所は避けて保管してください。

●デッキ材のカット

- ・デッキ材は鋸でカットしてください。Rカットも可能です。
- ・本製品の長さは 2000mm(指定特注品を除く) ですが、寸法公差がありますので根太ピッチに合わせてデッキ材の両端部を直角に端切りしてください。

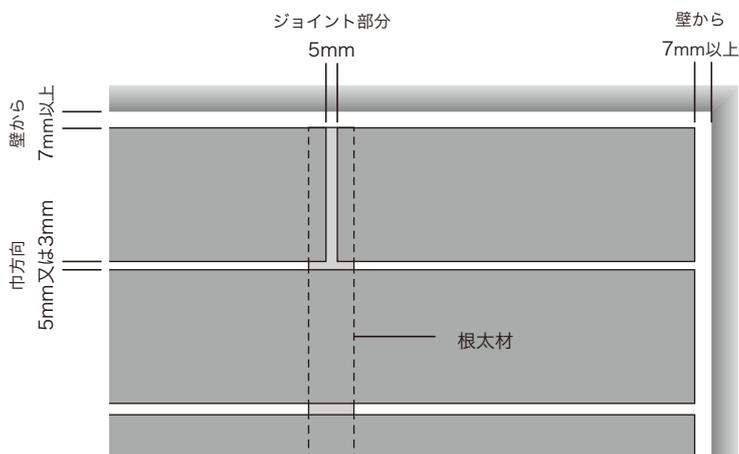
●デッキ材の仮並べ

- ・デッキを固定する前に仮並べを行い、色合いのバランスやカットしたデッキ材の長さを確認してください。
- ・デッキ材の貼り方は長手方向 1/2 ずらし (リャンコ貼り) をお勧めします。

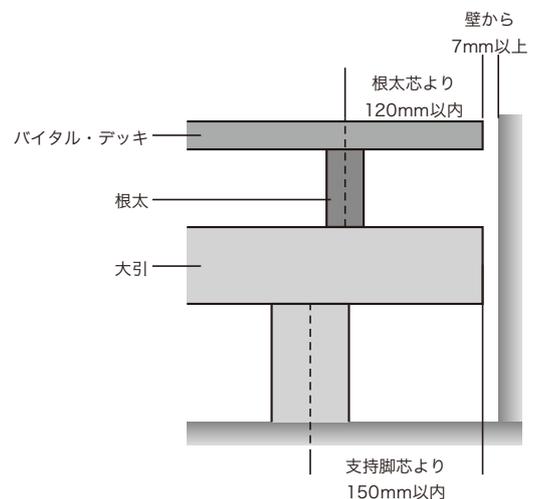


●デッキ材の固定

- ・専用金物を使用して根太に固定してください。
- ・専用金物は右図のように金具の向きに注意してデッキ材のサイドスリットに固定してください。
- ・長手ジョイント部には 5mm のクリアランスを取ってください。
- ・周囲の構造体からデッキ材の端部まで最低 7mm のクリアランスを取ってください。
- ・デッキ材のはね出し (片持ち) は根太芯から 120mm 以内としてください。



※巾方向の目地は使用する根太用クリップによって変わります。

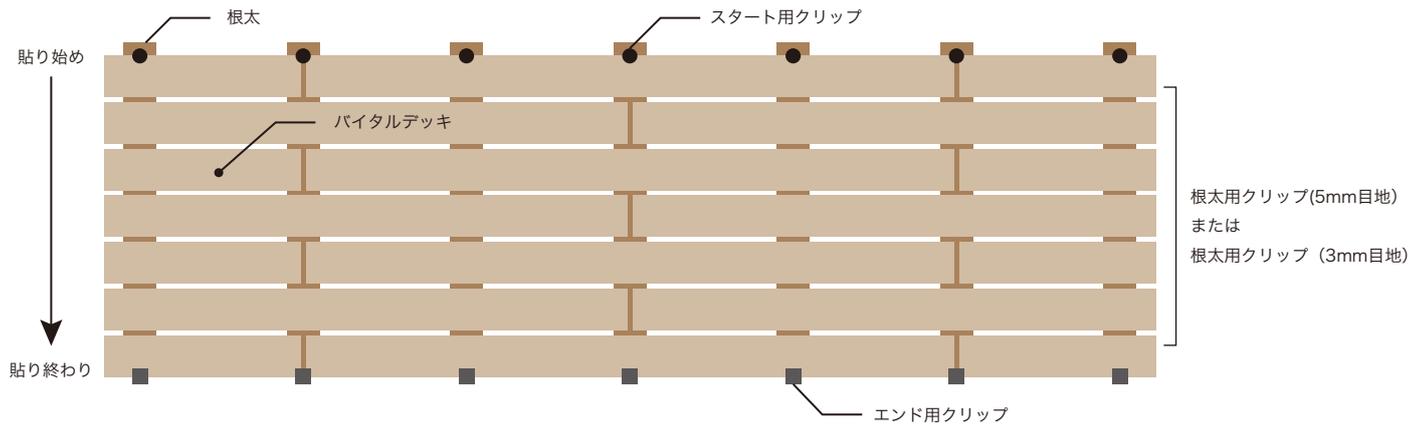




●端部の納まり

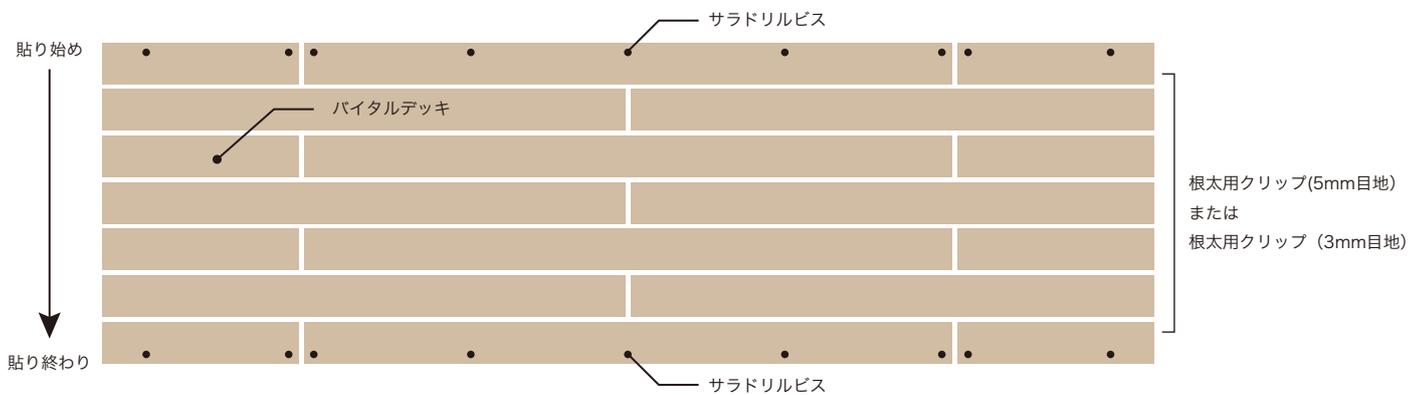
端部の納め方は下記の2パターンがあります。

(1)「スタート用クリップ」を使用して貼り始め、貼り終わりは「エンド用クリップ」を使用して納める。



(2) 両端部は脳天から根太に向かってビス止めして固定する。

(木製下地用の脳天固定用のビスも用意しています。詳細はお問い合わせください。)



※デッキ材を長手方向に沿ってカットした場合、スタート用クリップ、エンド用クリップを使用することはできません。長手方向に沿ってカットした場合は、脳天からビス止めをしてください。

※スタート用クリップ、エンド用クリップはバイタルデッキ R30 には使用できません。

バイタルデッキ R30 を使用する場合は端部は脳天ビス止めにて固定してください。

●バイタルエッジデッキ

・端部用の部材として、バイタルエッジデッキ R25 / R30 も使用できます。階段の段鼻や端部を見せる納まりのときは、バイタルエッジデッキ R25 / R30 を使用してください。

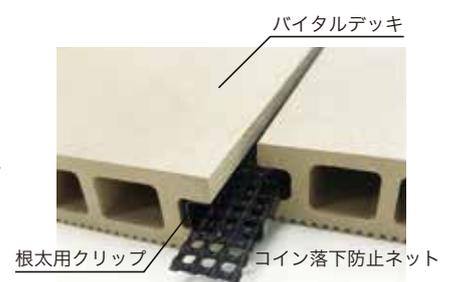
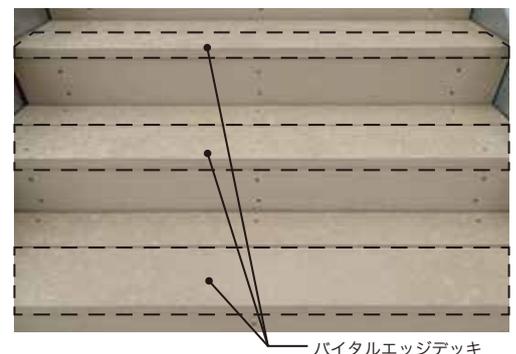
※端部は脳天ビス止めにて固定してください。

●幕板・エンドキャップの取付

- ・幕板は下地に向かって脳天からビス止めしてください。
- ・幕板は緩やかなR面に沿って曲げることが可能ですが、R面に使用の場合は注意して施工してください。
- ・木口の中空部には専用のバイタルキャップRをご利用ください。

●コイン落下防止ネットの取付

- ・コイン落下防止ネットを使用する際は、ネットの端部を千枚通しなどを使用して引っ掛け、デッキ材の端部から差し込んで、隙間を埋めるように引っ張ってください。
- ・コイン落下防止ネットはデッキ材と同じ2000mmです。落下防止のため、ネットの端部は根太の上に来るようにしてください。





### 施工上の注意点

- ・本製品はリサイクル材料から生産されているため、製品によって多少の色のバラ付きが見られることがありますが品質には問題はありません。
- ・デッキに一定の目地巾を保つため、使用する根太用クリップに応じて 3mm 又は 5mm のあてものをはさみながら施工してください。
- ・寸法公差がありますので本製品の両端部は直角でない場合があります。施工時は必ず端切りし、直角を確認してから施工してください。
- ・本製品は木工用の通常鋸でもカット可能ですが、カットには超硬チップ付き鋸刃の使用をお勧めします。
- ・本製品への市販塗料による塗装は出来ません。
- ・風の影響の大きな場所に施工する場合は飛散防止対策を行ってください。
- ・鋼製根太の切断屑はもらい錆の原因となりますのでデッキ表面に残らないようにしてください。

### 使用時の注意点

- ・本製品は可燃性です。デッキ上で火気を使用しないでください。
- ・夏場に直射日光が当たるとデッキ表面が高温になる場合がありますのでご注意ください。
- ・デッキの上に重量物を置く場合は荷重が分散するように敷板などをご使用ください。
- ・デッキ表面に強い衝撃を与えると破損・変形する場合がありますのでご注意ください。
- ・シンナー、ガソリン、有機溶剤などは変形・変色の原因になる場合があります。付着した場合はすぐに拭き取るようにしてください。
- ・デッキブラシを使用する場合はナイロン製のものを使用してください。ワイヤー製のものは使用するとデッキ表面をキズつける可能性があります。
- ・本製品は原材料に廃棄プラスチックや木粉を使用しているため、天然木にも見られるように製品毎に多少変色する場合があります。
- ・軒下などに設置した場合、雨水で濡れたデッキ表面にシミができる場合があります。性能上は問題ありませんが美観上問題になる場合は中性洗剤を使用して洗浄してください。
- ・金属類を長期にわたり直接デッキの上に置かないでください。デッキが黒ずむ場合があります。
- ・デッキ床下が長期にわたり過度の順湿状態にあると、デッキ材の反り・ねじれ・膨張・割れなどの原因になる場合があります。デッキを設置する床下の通気や排水にご注意ください。

### お手入れの方法

#### 日常のお手入れ

- ・デッキ表面のゴミや埃はほうきなどで掃除してください。
- ・汚れはモップやナイロン製のデッキブラシなどを使って水洗いした後、水切りワイパーで表面の水を除去してください。
- ・水洗いで取れない汚れは中性洗剤を使って洗浄し、洗剤がデッキ表面に残らないようによく水で洗い流してから水切りワイパーで表面の水を除去してください。
- ・高圧洗浄機を使用できます。ただし、水圧が強すぎるとデッキ表面を傷める可能性があります。水圧の調整にはご注意ください。



#### メンテナンス

- ・油汚れ、キズ、タバコの焦げ跡などは表面を雑巾などで掃除した後、市販のサンドペーパー (#40 ~ 60) を長手方向に使用し、削り取って補修してください。削った箇所は色合いが変わる場合があるため目立たない場所でテストしてから作業を行ってください。

### 黒いシミ(黒い斑点のような汚れ)について

- ・使用にあたりデッキ表面に黒い斑点のような汚れが現れることがあります。これは砂や埃が雨天時に水分と混ざりデッキ表面に付着した状態です。この汚れは水をかけ、デッキブラシでこすれば除去できます。ただし、汚れを長期間放置すると汚れが水分と一緒にデッキ材に染み込んで除去が難しくなる場合がありますのでご注意ください。

清掃前



清掃後



- ・デッキブラシで落とせない汚れは塩素系漂白剤を使用して取り除いてください。塩素系漂白剤を使用する場合は事前にデッキ表面のゴミや埃を取り除いた後、汚れを落としたい箇所を水で濡らし、漂白剤を使用して5～10分程度放置してください。汚れが落ちたことを確認した後、水を含ませた雑巾などで漂白剤が残らないように十分に洗浄し、最後に乾拭きしてください。

注) サンドペーパーや漂白剤によるメンテナンスは本製品の色合いを損ねる場合があります。目立たない部位やカットサンプルを使用して事前にテストしてから漂白洗浄してください。

#### 《解体に関して》

- ・本製品を解体する場合は、他の構造物・建築物に影響がないことをよく確認した上で施工手順の逆の順に解体してください。

#### 《廃棄に関して》

- ・本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物と区別し、産業廃棄物として専門業者に処理を委託してください。

